

## [2021]九州大学情報統括本部年報 : 2021年度

<https://hdl.handle.net/2324/4844360>

---

出版情報 : 九州大学情報統括本部年報. 2021, pp.1-, 2022-10-01. Information Infrastructure Initiative, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :



## 2021 年度年報の発行にあたって



情報統括本部長 石橋 達朗

情報統括本部は、本学の全構成員に教育・研究・事務・診療に必要な共通の情報基盤・情報サービスを提供することを目的に、2007年4月に発足しました。本部は、情報基盤研究開発センター、事務局情報システム部、および附属図書館を中心に、関連部局から参加する教職員からなる部局横断的な全学的組織として、継続的かつ安定的な活動を行っています。2020年10月には、CIO (Chief Information Officer)とCISO (Chief Information Security Officer)の分離や副CIOを配置するなど、情報セキュリティ強化としてガバナンス体制を整備しています。また、2020年から世界規模で感染が拡大したCOVID-19による本学の教育研究活動等への影響を、情報技術で如何に抑えるかが引き続き重要なポイントとなっています。

本年報は、2021年度に行った主な活動を報告するとともに、将来のサービス向上に向けた方針や方向性を、学内外の利用者に周知することを目的に発行しています。本部が、学内外の利用者の視点に立って新しい技術を取り入れ、安全・安心に、安定して使いやすい情報基盤と情報サービスを引き続き提供していけるよう、利用者の皆様からの忌憚のないご意見やご要望をお寄せいただければ幸いです。

## 2021 年度の活動報告



情報統括本部副本部長 (CIO) 谷口 倫一郎

情報統括本部では、2021年度に主に次の活動を行っております。

### 【情報セキュリティ強化】

教職員の在宅勤務等により、学外から本学の情報資産へアクセスする機会が増えることに伴って、情報セキュリティに関する潜在的リスクも高まっています。そのリスク低減、特に不正アクセス対策の強化を実現するために、2021年4月からマイクロソフト社の多要素認証 (MFA: Multi-Factor Authentication) の運用を開始し、利用用途の多い全学基本メールで活用できるように利用者ガイドを作成しました。さらに、よりセキュアな環境が求められる事務用テレワークシステムにおいては、MFAを必須とした運用も開始しました。その他、情報セキュリティ強化として、学内メールサービスの適切な運用を図るために運用要件を新たに定め、要件を満たさないメールサーバや

未申請のメールサーバによるメール送信を禁止し、本部が管理運用する全学基本メールサービスに集約しました。これにより、全学的な情報セキュリティの向上だけでなく、情報コストの削減も図ることできたと考えています。

#### 【研究支援】

スーパーコンピュータ（ITO）の利用支援として、企業ユーザから要望のあったパブリッククラウドとの共通APIの環境を構築し、ITOの利用を促進する環境整備を行いました。また、COVID-19の影響で海外との人的交流が大きく制限される中、効果的な人的交流の推進方策として、これまで対応できていなかった海外組織からのITO利用を可能とする契約手続きを確立し、インドネシアのバンドン工科大学と利用契約を締結しました。加えて、次期スーパーコンピュータシステム選定に向け、最新技術の動向調査と現有システムの利用課題の分析を行いました。

#### 【教育支援】

e-ラーニングシステムMoodleとデジタル教科書システムを中心とする学習支援システムの安定運用を図るとともに、利用支援の一環として本学の学生組織「quickQチーム」と連携して、新入生向けの入学前PCセットアップの説明動画作成や、問い合わせ応答の効率化を図るチャットボットシステムを導入しました。

#### 【情報ネットワークシステム】

2021年度に学内のKITEネットワークサービスの対外接続ルータや、大橋地区コアスイッチの機器を更新し、新機種での運用を開始するとともに、耐障害性を高めるため、馬出地区基幹スイッチ、病院フロアスイッチ、全学用無線LANシステムの機器を更新しました。

引き続きサイバー攻撃に対する対応や災害時の対策に取り組みつつ、利用者にわかりやすい情報提供や支援サービスの強化を行うなど、情報環境整備を進めてまいります。